

かまいし市議会だより

100号記念特別号
平成17年6月1日



飛躍が期待される釜石湾（釜石港湾事務所提供）



議長 平舘幸雄

かまいし市議会だよりは、昭和五十六年に「議会の状況を市民にお知らせし、理解を深め、市勢発展に寄与する」ことを目的に第一号を発行以来、今回第百号を迎え、記念号を発行することができました。地方分権が進む情勢の中、透明性を確保した情報の提供が求められる今日、議会だよりの役割は重要となってくるものと思われまます。

市民から親しまれる「議会だより」とするため、引き続き努力してまいりますのでご理解・ご協力を心からお願いいたします。



市長 小沢和夫

かまいし市議会だよりの発行百号を心よりお慶び申し上げます。昭和五十六年から始まった市議会だよりは、議会活動内容と市政運営の現状を的確に市民にお知らせできる、誠に得がたい広報誌であります。

これまで発行に携わった皆様に敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。今後とも市議会だよりの発行を通じて市勢の発展にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さらなる飛躍を
目指して

議長 平舘幸雄

議員名

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-----|-------|------|------|------|------|
| 24番 | 23番 | 22番 | 21番 | 20番 | 19番 | 18番 | 17番 | 16番 | 15番 | 14番 | 13番 | 12番 | 11番 | 10番 | 9番 | 8番 | 7番 | 6番 | 5番 | 4番 | 3番 | 2番 | 1番 | 副議長 | 議長 |
| 藤原茂實 | 小野寺英雄 | 平松福一 | 藤井修一 | 佐野金吾 | 松坂喜史 | 秋元厚孝 | 野田忠孝 | 欠員 | 佐々木義昭 | 川崎長一 | 山崎規榮 | 菅原孝夫 | 菊池松孝 | 和田勘二 | 岩間敏之 | 両川昭利 | 水野正人 | 海老原孝子 | 細田良子 | 坂本透 | 佐々木利弘 | 小鯖博政 | 新里一夫 | 佐藤幸雄 | 平舘幸雄 |

100号までの歩み

議会だより100号発行を記念し、これまでの議会だよりを振り返り、当時の議会で議論されていた内容などを抜粋して掲載します。

創刊号から第35号（昭和56年8月～平成元年1月）



三陸鉄道・新大渡橋

創刊号発行（昭和56年8月1日）

- ・創刊号の見出しは「市勢発展に論議集中」
- ・「三陸縦貫鉄道の廃止回避を」
- ・創刊当時の人口は65,097人、議員定数は36人
- ・議長 菊池弘 副議長 菅原篤
（市長 浜川才治郎）

第7号（昭和57年11月1日）

- ・7月28日には湾口防波堤第1号ケーソン設置
- ・「三陸鉄道工事急ピッチ」
- ・全国初の第三セクター三陸鉄道工事再開・昭和59年4月の開業を目指す

第10号（昭和58年5月1日）

- ・市民病院の経営難などが表面化していることから、赤字財政への転落の危機感が強まり、健全財政堅持に論議が集中

第12号（昭和58年11月1日）

- ・8月の改選により
議長 長谷川忠久 副議長 小野寺英雄誕生
- ・議員定数36人から31人に 人口63,455人

第18号（昭和60年4月1日）

- ・「最小の経費で最大の効果 医師確保に取り組む」
- ・ごみ処理費用がかさむ清掃工場のコスト削減など議論
- ・1月15日 新日鐵釜石ラガー日本一7連覇達成

第20号（昭和60年11月1日）

- ・「在京釜石人会（はまゆり会）設置」

第29号（昭和62年7月15日）

- ・「10万人都市構想で論戦 野田市長・初の所信表明」
- ・激しい選挙戦で新市長に就任した野田市長の「所信表明」・ビジョン
- ・議会各派の政策論争、新日鐵高炉休止「合理化」が労使間で妥結した直後の議会論議

第30号（昭和62年10月15日）

- ・「飼料基地は有望 遊休地の早期適正提供を」
- ・新規事業誘致の飼料基地など議論
- ・飼料基地は実現可能 500～1,000名規模の雇用を説明
- ・議長 平松福一 副議長 佐々木兼吉誕生
人口58,329人

第31号（昭和63年1月15日）

- ・仙人・1000人総決起大会
- ・海洋バイオ設置決定

第34号（昭和63年11月1日）

- ・「流通港拡大に大きな前進 中根問題解決」
- ・「トヨタ自動車陸揚港に決まる 漁業振興への対応も」



昭和62年10月13日の仙人・1000人総決起大会

第36号から第70号（平成元年4月～平成9年10月）

第36号（平成元年4月15日）

- ・「高炉休止・人口5万人台の維持 大型新規事業で雇用の確保」
- ・高炉休止への対応策を議論
- ・市長報告は水産ハイテク・科学技術専門学校等「高炉休止」後の振興策を柱に
- ・3月31日高炉休止 人口54,805人

第38号（平成元年10月15日）

- ・「根浜マリニイベント 砂の祭典」
- ・動力炉・核燃料開発事業団による「地下研究」問題に論議集中

第44号（平成3年5月1日）

- ・「若者定着へ 誘致企業SMC操業開始」

第46号（平成3年10月15日）

- ・「新仙人道、公共埠頭に展望ひらける」
- ・長年の懸案 仙人道路と公共埠頭の拡張にゴーサイン
- ・議長 佐野金吾 副議長 平館幸雄誕生
- ・議員定数31人から28人に 人口52,916人



晴天に恵まれた三陸・海の博覧会

第50号（平成4年11月1日）

- ・「三陸博成功を飛躍台に」
- ・三陸博の成果に対する当局の認識と以後の街づくりに議論集中
- ・三陸・海の博覧会 74日間の釜石会場入場者数132万4,594人

第52号（平成5年5月15日号）

- ・議会だより タブロイド版からA4版に
- ・仙人峠道路のルート発表

第55号（平成6年1月15日）

- ・「厳しい釜石の再生振興策が焦点」
- ・橋上市場の存続問題を議論



選抜甲子園初出場を喜ぶ南高校野球部

第60号（平成7年4月15日）

- ・「職員定数削減へ強い意欲」
- ・行政改革 5年間で5%の職員削減

第62号（平成7年11月1日）

- ・斎場 平田地区に決定
- ・議長 佐野金吾 副議長 千葉勝男誕生 人口50,338人

第66号（平成8年10月15日）

- ・「市民病院新院長 経営改善に積極意欲」
- ・市民病院の経営改善、鶴住居土地区画整理事業、物産センターと釜石駅舎改築など議論
- ・3月31日 釜石南高校第68回選抜高校野球大会初出場

第70号（平成9年10月15日）

- ・「再生・振興策に白熱の論戦」
- ・4月20日 新観光船はまゆり就航
- ・10月28日 日向ダム竣工式



双胴船 はまゆり

第76号から第100号（平成11年4月～平成17年4月）

第77号（平成11年7月15日）

- ・「小野新市長に対し基本的行財政運営を問う」

第78号（平成11年11月1日）

- ・議長 小沢和夫 副議長 鈴木正幸誕生
- ・議員定数28人から26人に 人口47,961人

第81号（平成12年7月15日）

- ・「第五次釜石市総合計画基本構想決まる」
- ・農林水産業の活路に議論集中・道路特定財源制度堅持へ意見書提出

第84号（平成13年4月15日）

- ・旧岩手科学技術専門学校校舎の取得
- ・4月25日 釜石シーウェイブスR F C設立

第90号（平成14年11月1日）

- ・「台風の爪あと深く 防災計画の見直し」
- ・台風6号の通過 災害に強いまちづくり

第93号（平成15年7月15日）

- ・「小沢新市長の所信を問う」
- ・釜石港の総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）指定
- ・釜石広域風力発電事業の着工
- ・駅前橋上市場サン・フィッシュオープン



駅前のシンボル サン・フィッシュ

第94号（平成15年11月1日）

- ・議長 平舘幸雄 副議長 佐藤一夫誕生
- 人口45,357人

第98号（平成16年11月1日）

- ・「市民病院と県立病院の統合決まる」
- ・平成12年度から取り組んできたエコタウンプラン承認

第99号（平成17年1月15日）

- ・「次期改選期より議員定数26人から23人に削減」



正副議長・議会だより編集委員会メンバー



釜石市の花 はまゆり

記念号を編集して

かまいし市議会だよりは、昭和五十六年八月一日、浜川市政の二期目で菊池弘議長・初代編集委員長山崎哲也議員のもとで産声を上げてから、本年四月十五日の発行で百号を迎えました。

実に二十四年にわたる釜石市議会の生々しい論議の跡が残されており、それは鉄と魚のまち釜石、企業城下町釜石の戦後最大の危機を迎えての厳しいまちづくりの歩みでもあります。百号を振り返り、節目となるいくつかの議会、たよりを抜粋しました。

平成十八年度の仙人峠道路、湾口大防波堤の完成、三陸縦貫自動車道の着工などの基盤整備、また、リサイクルポートやエコタウンの承認など新たな都市づくりの息吹が聞こえてくる一方で、さまざまな課題も山積しています。

二十一世紀の新たな釜石市の創造に向けて市議会として努力してまいりますので、市民の皆様のご指導、ご鞭撻を
お願い申し上げます。

（菅原 記）